

## カンキツ幹腐病の発生

平成12年7月に肱川町のユズ園で、枝幹部にすり鉢状または溝状の凹みを生じて腐り込み、黄色盃状の子のう盤を形成している症状が確認された。病変褐変部および子のう盤からは、幹腐病菌が高率に分離され、ユズに対する病原性も認められたので、本症状は本県初確認のカンキツ幹腐病と判断された。



写真1 被害の状況（溝状に枯れ込む）

本菌は、PDA培地上で非常に生育の遅い菌で、子のうは $72-101.5 \times 6.5-8.0 \mu\text{m}$ 、棍棒状の円筒形で、基部は単純隔壁、先端は円錐形、頂部は平坦である。子のう胞子は $32.5-58 \times 2.5-4.0 \mu\text{m}$ 、円筒形から糸状、ほとんどが3-5-隔壁、最大7-隔壁、真直、わずかに曲がるか、S字状である。側糸は細い槍型、最も太い部分で $3.0-4.0 \mu\text{m}$ 、子のうと同長または、わずかに長い。以上の結果から、カンキツ幹腐病菌（*Lachnam abnorme* (Mont) Haines & Dumont）と同定した。

本病の発生は、徳島県や高知県で非常に多く、生産上大きな問題になっている。また、ユズ以外に温州ミカン、ポンカンおよびスダチ等で発生が確認されている。

県内では、現在のところ肱川町および松野町での発生を把握しているが、同様の症状が発生している町村があれば試験場まで御一報願いたい。

本病には一部登録薬剤もあるが、有効な防除法については、今後詳細な検討を行う予定である。



写真2 被害の状況（すり鉢状に凹む）



写真3 子のう盤



写真4 子のう



写真5 培養1ヶ月後の菌そう（生育が非常に遅い）



写真6 子のう胞子

（病害班 主任研究員 三好孝典）

編集発行

愛媛県立果樹試験場

〒791-0112 松山市下伊台町1618 TEL 089-977-2100 FAX 089-977-2451